

(103) 福島県の八茎（やくき）鉱山

3つの参考文献(1)、(2)、(3)を手引きに、八茎（やくき）鉱山の探査を行った。この鉱山は、阿武隈山地の東縁、福島県の南東部に位置する銅の高熱交代鉱床である。現地の地表は石灰岩層であり、この石灰岩層の下部にスカルン帯が形成されている。地表に、幾つかの露頭鉱床があり、初期には銅鉱山として稼業され、大正時代に最盛期を迎えた。その後、一時休山をしていたが、鋭意探鉱をした結果、1960年代まで、銅鉱山として稼業をしていた。が、その後閉山となり、新たに石灰石鉱山として最近まで稼業していたようである。が、現在では、一面に石灰石が露出しているが、少しずつ、現地は自然に還り始めている。なを、Google Earthで、石灰採石場の様子が一望できる。

八茎鉱山への経路は次の通りである。常磐道をいわき四倉ICで下車する。35号に入り、41号、直ぐに363号に入り、北上していく。後は道なりに進んでいけばよい。鉱山遺跡の見学地としては結構な鉱山跡であると思う。旧通洞坑近傍の沢には鉱石の転石も格好沢山ある。石灰石ならば、幾らでも採集できる。

いわき四倉ICより1つ先の広野ICより先は、東電の福島第1原発の事故による一帯の放射能汚染のために、閉鎖され、通行不可である。

探査日 2011年11月、2012年2月

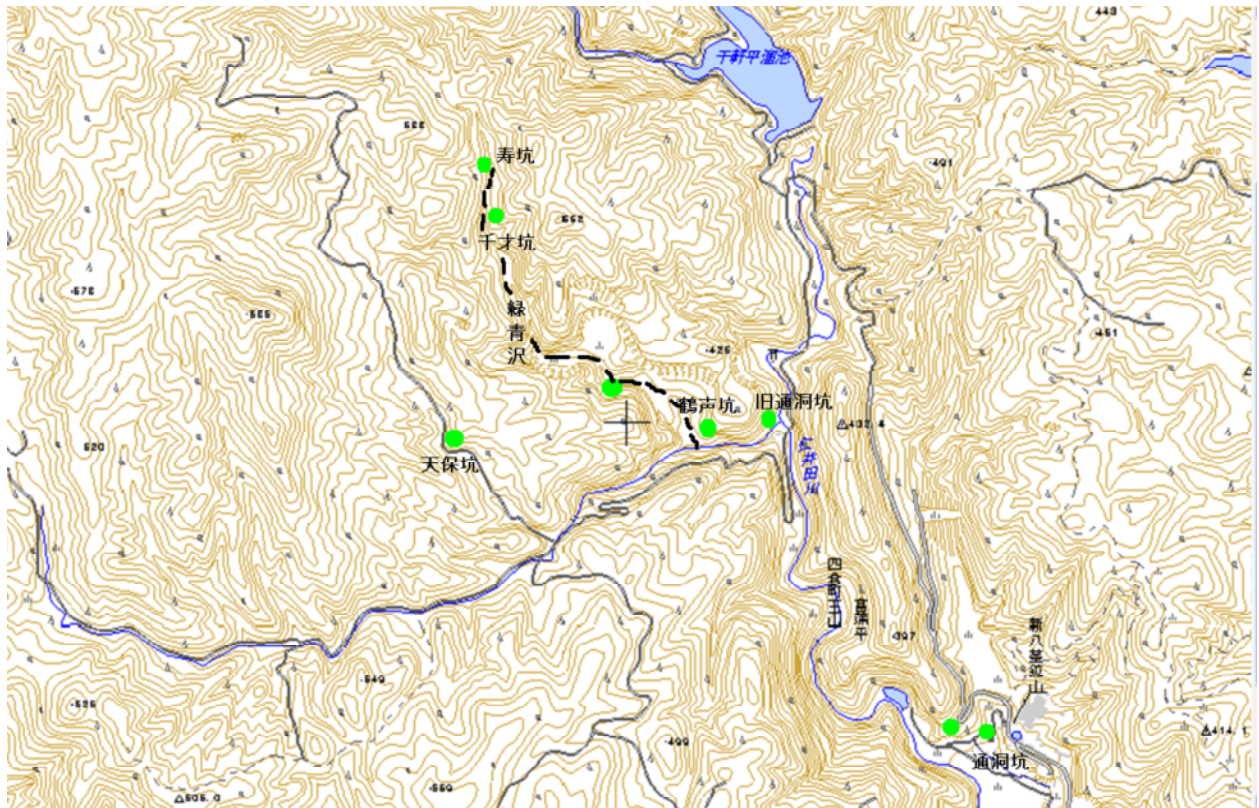


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。黄緑丸は確認した坑口跡。参考文献と対照させて、坑口名を記入している。鶴声坑からの黒破線は緑青沢。なだらかな沢登りとなる。転石を探しながら登っていけば、それなりに楽しい。露頭鉱脈が見つかるかも知れない。

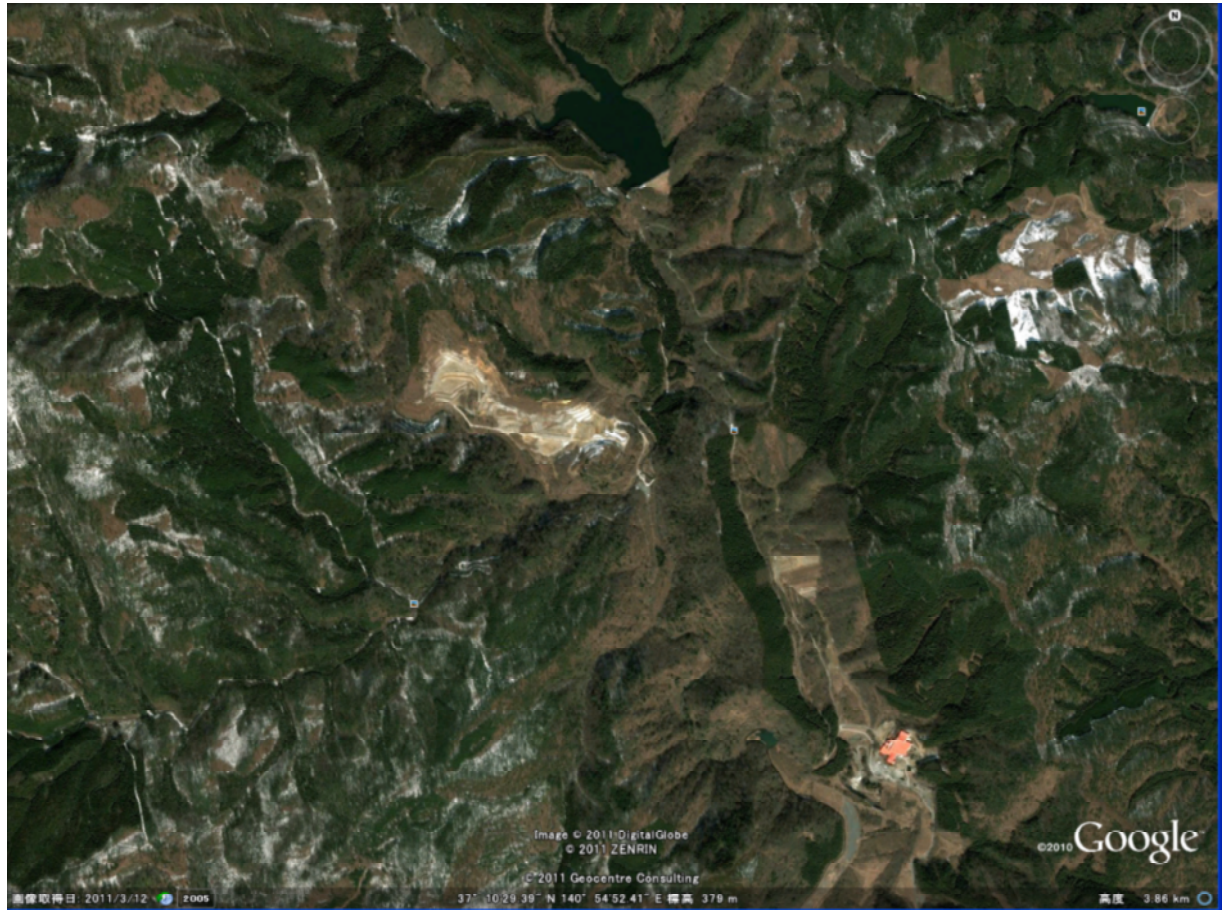
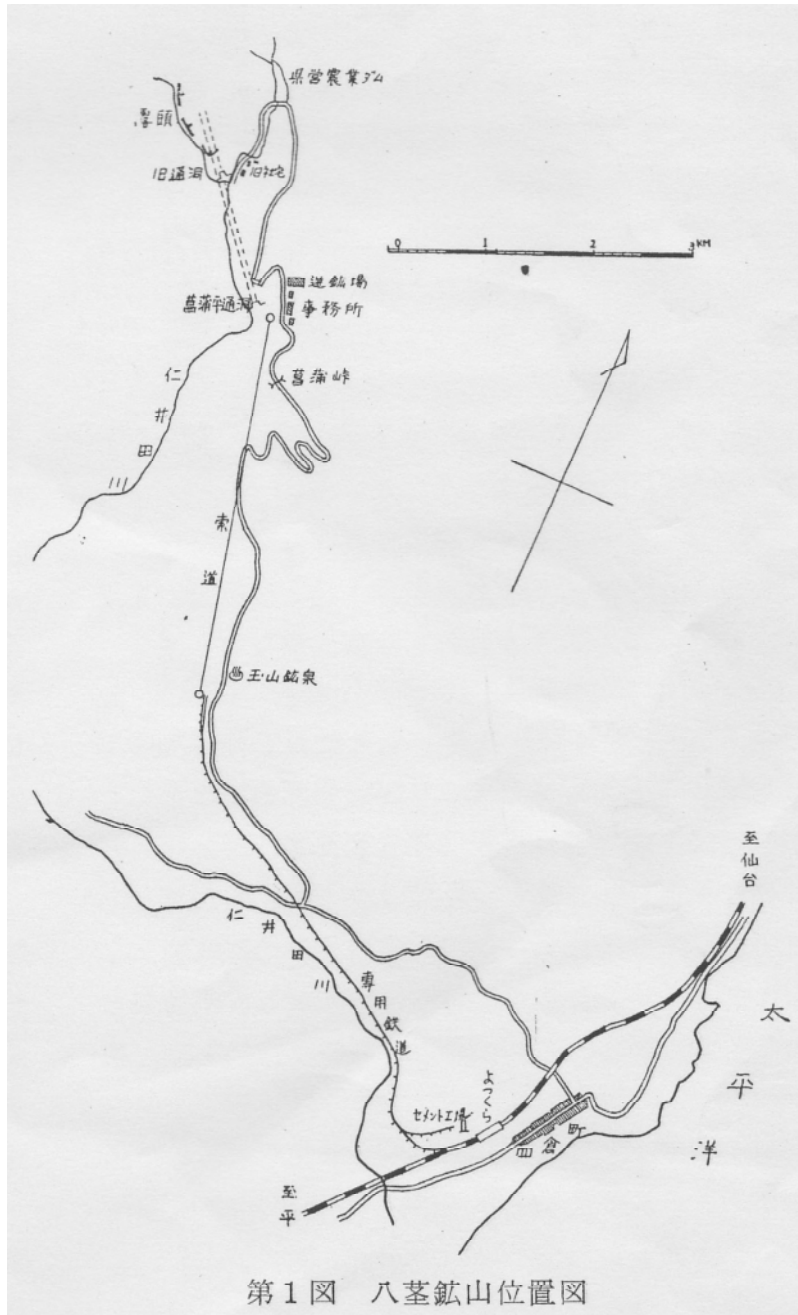


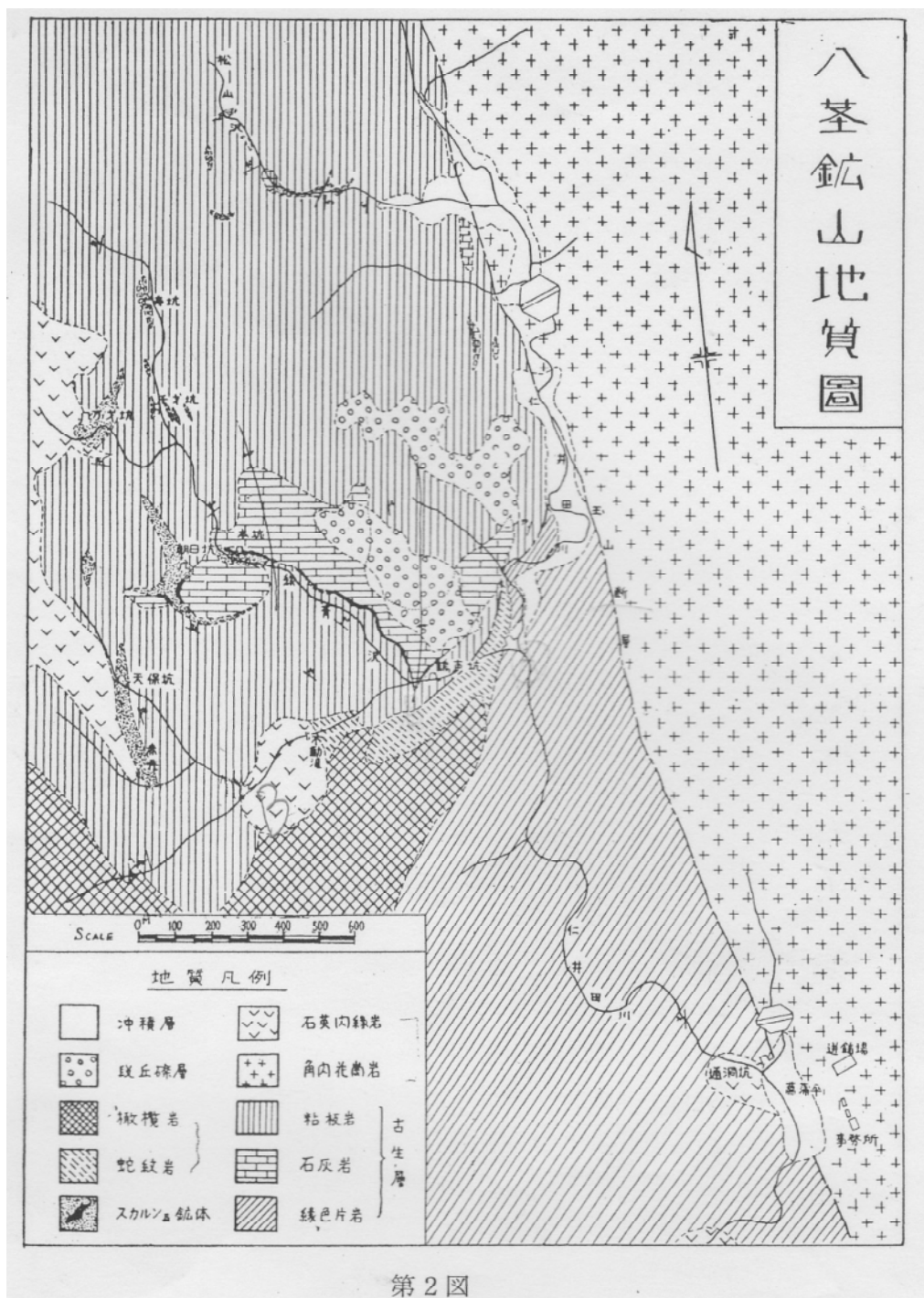
図2 Google Earthで、八茎鉱山近傍を見る。右下の赤い色は新八茎鉱山事業所跡。真ん中あたりが、銅鉱山から石灰石鉱山となった、広い石灰石露天掘り跡。中央上部に千軒平ため池がある。



第1図 八茎鉦山位置図

図3 参考文献(2)より、複写掲載。60年ほど前の八茎鉦山位置図である。玉山温泉より先の道は変わらないようである。専用鉄道、索道は完全に消えている。現在では専用鉄道跡を横切るように、南西から北東方向に、常磐高速が延びている。

所で、専用鉄道の痕跡、索道の痕跡を探す出すのも面白いかも知れない。



第2図

図4 参考文献(1)より複写掲載。鉦山までの道は記載されていない。川を目安に、図1と、この図を対照すれば、地形図上での地質分布がよくわかろう。

鉾山跡写真



写真1 八茎鉾山を目指して道路を北上中に、右側に立っていた現地観光案内板。鉾山関係「遺跡」が幾つか明記されている。このような案内板は、現地の探査に非常に役に立つ。



写真2 新八茎鉾山事業所の廃屋。2011年11月時点の様子である。2012年2月に再訪したら、建物は完全に除去され、コンクリートの基台だけとなっていた。写真6がそれである。



写真3 通洞坑跡。事業者後の下の沢の奥にある。観光施設として、残して欲しいものである。



写真4 旧通洞坑付近で。赤い鉄橋の下は沢。その先に旧通洞坑跡がある。



写真5 林道を旧通洞坑跡から、更に先に進み、不動滝を通過した先にある、分岐林道。天保坑への入口の林道である。



写真5 林道の脇にあった天保坑。



写真6 2012年2月に訪れたら、写真2で見えていた建物が消えていた。コンクリートの基台だけとなっていた。



写真7 緑青沢の上流の左岸で確認した坑口跡。右岸には道らしいのが残っていた。その右岸からの撮影。真ん中の白い円形に近いものは坑口の閉塞跡。その手前はプラトーとなっている。
千才坑跡と考えている。



写真8 緑青沢を更に上流に進んでいって、沢の右岸にあった坑口跡。このあたりまでは、道らしいものはあった。この先には、道らしいものは確認できなかった。寿坑跡と判断した。ズリらしいものはあったが、何の標本も採集できていない。

採集鉱物写真

銅鉱石を幾つか採集をした。それ程の物ではないので未掲載とする。

参考文献

- (1)「福島県鉱山誌」、福島県、1964年。
- (2)「八茎鉱山の地質鉱床について」、平山 昭、鉱山地質、vol. 9, no. 38、p352~p359、1959年。
- (3)「八茎鉱山の探査及びその成果について」、西脇三樹雄、その他、鉱山地質、vol. 10, no. 44、p329~p337、1960年。